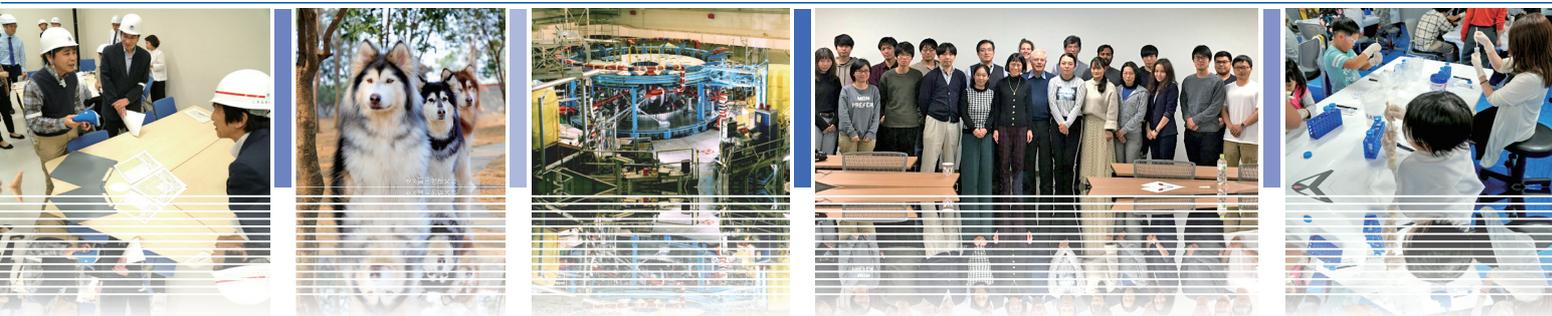


News Letter

72号 2020年3月



京都大学宇治キャンパス公開 2019	03
2019年度 宇治キャンパス総合防災訓練の実施	04
The 2nd International Symposium of Biofunctional Chemistry の開催	05
最新研究トピックス	06
院生のページ	07
新任教員紹介	08
附属エネルギー複合機構研究センター便り	10
受賞	11
研究所訪問	11
各種研究費の受け入れ	12
人事異動	12
部局間学術交流協定締結	13
外国からの来訪者	13
海外渡航	16
各種講演会の開催状況	18
研究所出版物一覧	18
研究所組織系統	19



<http://www.iae.kyoto-u.ac.jp/>

京都大学エネルギー理工学研究所

Institute of Advanced Energy, Kyoto University

京都大学宇治キャンパス公開 2019

宇治キャンパス公開 2019 実行委員会
教授 小西哲之

京都大学宇治キャンパス公開 2019 を 2019 年 10 月 19 日（土）、20 日（日）に開催しました。地元・一般市民に幅広く宇治キャンパスの研究活動をご覧いただき、学内外の理解と支援を得ること、部局間の研究者の交流を図ることを目的としたイベントで今年は第 23 回になりました。初日は少しぐずついたお天気で出足が心配されましたが、翌日は晴天に恵まれ、合計 2,425 名の参加がありました。約半分が宇治市からの参加ですが遠方から来られる方もあり、また楽しみにしてくださるリピーターも多くいらっしゃいます。幅広い年代の方が参加され、小学生は約 4 分の 1 で、親子三代で来られる方もいます。

今年のテーマは「サイエンス探偵宇治支部。探そう！社会を科学で考える鍵」で、研究所の各研究室も工夫を凝らした展示や公開ラボで充実した二日間となりました。整理券を発行したものの早々に満席になってしまったり、行列ができたりと、どのラボも大変な人気で、特に子ども連れのご家族が様々な実験に参加してくださいました。特別講演会では当研究所の野平俊之教授による「イオンだけの液体を使ってエネルギー問題に挑む」のほか、各研究所から興味深いトピックがわかりやすく話されましたが、こちらの参加者は平均年齢も高く、落ち着いた雰囲気でした。全体としては幅広い年代の方々に楽しんでいただけたと思いますし、また説明する側としても、一般市民の方や子どもたちに我々の研究をわかっていたくのにいろいろ苦労したり、説明に窮したり、教員も学生も、昨今必要性を強く認識されている「アウトリーチ活動」として、それなりに有意義な教訓が得られたのではないのでしょうか。

宇治地区各研究所・部局、事務部が、広報や講演会企画など、様々な役割で協力する実行委員会も独特の取り組みですが、実は今年度の当研究所の担当は懇親会でした。キャンパス公開に先立つ 10 月 17 日（木）、クリーン作戦後に生協食堂で開催し、こちらも盛況でした。キャンパス公開・講演会は、基本的にボランティアで、参加すると準備委員会や反省会も含めた仕事も、週末二日の接客も、やりがいがありますなかなか大変です。しかし、アンケートも好評ですので、今後とも工夫を凝らした公開ラボなど、皆さんの積極的な参加が期待されます。



大学入口の風景



特別講演会での野平俊之教授



公開ラボ
「身近な食べ物から DNA を取り出してみよう」

2019年度宇治キャンパス総合防災訓練の実施

エネルギー工学研究所
消防隊長（代理） 小西哲之

宇治地区の総合防災訓練が2019年10月30日（水）午後4時から実施されました。本来、自衛消防隊としての訓練でもあり、今年は大震災という想定で、一週間前の10月24日（木）に準備会合を開催するなど、想定されるストーリーをもとに実施しました。アサインされた人は、けが人役や救護班役など、本学の危機管理基本計画、訓練スケジュールに則り、また消防署にも参加していただき、対策本部を設置して訓練しました。年に一度の総合防災訓練ですが、皆さんはどの程度内容を理解されているでしょうか。大学としてはキャンパスにおられるはずの職員、学生がどこかで被害に遭っていないか、万が一にもけがをして建物などに閉じ込められたりしていないか等を確認し、場合によっては救出するためにも人員数確認はとても大切です。そのようなことから決まった集合場所で点呼を取り（写真1）、本部に届けることとなります（写真2）。恒例の消火器訓練も実施しました（写真3）。消火器はいざというときは使えた方がいいですが、それは可能な場合でよく、危なそうなら逃げる方が優先と考えてください。

今回特筆すべき点は、トラブルで一切のアナウンスが流れなかったことです。このため、皆さんが首をかしげながら大揺れのはずの各建物から、ちゃっかりエレベーターなども使ってぶらぶらと出てきて、ぞろぞろと集まり、五月雨的に点呼を取って解散となりました。消防隊の方はその後集まり、最後には消防署長から「かえってリアルでよかった」とのコメントをいただきました。実際にアラームが鳴らないと、どのように行動したらよいかを戸惑った経験を、せめて今後に活かしていただければと思える例外的な訓練となりました。

実際の災害では、もちろん事前のアナウンスはありません。地震はともかく、火災や水害、そのほかにもいろいろと、起きていることに気づかない災害もあるでしょう。外国人も大勢いる中で、緊急時に本当に機能するアナウンス、実際に授業や出張で居所のわからない人も多い安否確認。改めて大学の災害対策に不安を感じる場面もありました。災害対応で一番重要なことのひとつはコミュニケーションです。情報を的確に届け、共有する、という点では問題が抽出できて有意義な訓練でした。皆様におかれましても、身の回りの緊急時コミュニケーション、一度考えていただければと思います。



集合場所での安否確認訓練（写真1）



構内災害対策本部の様子（写真2）



消火器訓練の様子（写真3）

The 2nd International Symposium of Biofunctional Chemistry の開催

エネルギー利用過程研究部門 生物機能化学研究分野
教授 森井 孝、准教授 中田栄司、助教 仲野 瞬

本シンポジウムは、ゼロエミッションエネルギー研究拠点の共同利用・共同研究の支援のもと、国内外からバイオエネルギー・酵素学・生体工学などの生体機能関連化学に関する幅広い分野から研究者らを招き、生物が構築している効率のよいエネルギー生産・利用・回収システムの解明と応用利用を目指す、研究者同士の情報交換と交流促進・ネットワーク構築を目的に開催されました。

2019年4月6日(土)に開催された第一回目の「The International Symposium of Biofunctional Chemistry」に続き、今年度第二回目として2019年11月11日(月)に京都大学エネルギー理工学研究所の本館会議室で開催されました。

招待講演者として Thomas Jefferson University の Prof. Ya-Ming Hou と Prof. Howard Gamper の2名の講演のほか、物質—細胞統合システム拠点 (iCeMS) の坂口怜子特定拠点助教、他に所内から2名(中田栄司准教授、仲野瞬助教)の発表があり、外国人研究者や学内外の参加者総勢約30名が議論を行いました。講演内容は、病原菌の薬剤耐性の発現に関連した生体内化学反応、および分子認識機構の解明、生体高分子を用いたナノ工学や、生体内の事象の可視化技術の開発など多岐に渡っており、各講演で活発な質疑がなされると共に、異なる分野の研究者からの助言や、共同研究のアイデアや意見を交わす非常に良い機会となりました。

本シンポジウムの開催にご支援、ご協力をいただきました、ゼロエミッションエネルギー研究拠点共同利用・共同研究推進室の皆様のほか、ご協力いただいた皆様に改めて感謝申し上げます。



The Institute of Advanced Energy
2nd International Symposium of
Biofunctional Chemistry



Jointly Organized by: Zero Emission Energy Research Base
Nov. 11th (Mon) 2019 14:00~16:15, N-571 Seminar room

Invited Overseas Speakers



Prof. Ya-Ming Hou,
Thomas Jefferson University, USA
*"tRNA Methylation: A Global Determinant
of Bacterial Multi-Drug Resistance"*



Prof. Howard Gamper,
Thomas Jefferson University, USA
*"Insight into genome recoding from the
mechanism of a classic +1-frameshifting tRNA"*

Domestic Speakers:

Dr. Eiji Nakata, Dr. Shun Nakano, Dr. Reiko Sakaguchi

Contact: International Symposium of Biofunctional Chemistry Organizing committee
<https://sites.google.com/site/biofunctionalchemistry/program> 0774-38-3515, 075-383-2751



エネルギー生成研究部門 複合系プラズマ研究分野
准教授 南 貴司、教授 (兼) 長崎百伸

核融合エネルギーは太陽と同じ原理を用いて、海水中に豊富に存在する水素からエネルギーを生成する手法です。核融合エネルギーの実現には超高温の水素プラズマを生成し閉じ込めておく必要があります。プラズマを閉じ込める磁場中に超高温のプラズマを閉じ込めておく「輸送障壁」と呼ばれる「魔法瓶」のような断熱層を作ることができます。これまでの研究では、中心に近いところに輸送障壁があったため超高温の領域が狭いという問題がありました。

今回、東京大学大学院新領域創成科学研究科の釘持尚輝助教と我々の共同研究グループは、本学にあるヘリオトロンJ装置(図1)を用いて、水素プラズマの中心部分の輸送障壁で閉じ込められた約2,000万度の狭い超高温領域を拡大させることに世界で初めて成功しました [1]。

プラズマを閉じ込めている磁場にプラズマ電流を流すと磁気島とよばれる孤立した閉じ込め領域が形成されます。本研究ではヘリオトロンJ装置を用いて同装置がプラズマを閉じ込める磁場容器の構造を自在に制御できる特徴を生かし、さまざまな形状のプラズマに対しプラズマ電流を流すことで磁気島を形成し輸送障壁の移動と磁気島の間隔を調べました。プラズマ電流が磁気島を形成できる大きさに到達しプラズマ中に磁気島を形成すると、出現した磁気島の位置へ輸送障壁が移動することを発見しました(図2)。さらに、プラズマ電流を増加させ磁気島の位置を制御することで、輸送障壁の位置を自在に制御できることを見いだしました。この手法により水素プラズマの中心部分の輸送障壁で閉じ込められた超高温領域を、プラズマの広い領域に1万分の1秒で瞬時に拡大させることに成功しました。

今回発見した手法は、将来の磁場閉じ込め核融合発電炉の運転において重要となるプラズマ圧力分布の制御手段として活用されることが期待されます。また、磁気島を生成することで輸送障壁の位置を瞬時に移動させることができるため、プラズマの放電状態によってリアルタイムにプラズマ圧力形状を制御(フィードバック制御)できる可能性があります。現在フランスで建設中の核融合実験炉ITERや将来の核融合発電炉において重要な運転制御の手法として期待されます。

今後は、今回開発された輸送障壁の位置制御により、輸送障壁をプラズマのより外側に移動させることでこれまで以上にエネルギーの高いプラズマを実現するとともに、外部からの磁場を加えることで磁気島を制御する、積極的な輸送障壁の位置制御手法の開発を進めていきます。

参考文献

1. N. Kenmochi et al., Scientific Reports (2020), 10, 5.



図1: 京都大学宇治キャンパスにあるヘリオトロンJ装置の写真。5種類のコイルに流す電流を変えることで、さまざまな磁場構造のプラズマを生成することができる。

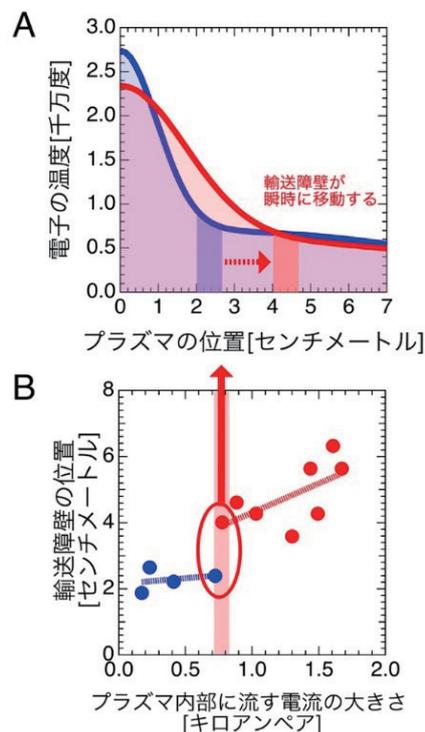


図2: A 磁気島の出現前後の電子温度分布の変化。磁気島が出現した時に輸送障壁が瞬時に移動する。 B プラズマ電流と輸送障壁の位置の関係。電流量を増やすと磁気島の位置が変わり、輸送障壁の位置を外側に移動させることができる。

エネルギー利用過程研究部門 複合化学過程研究分野
博士後期課程2回生 馬 元嘉

私は休みの日に、ネットでペットの動画を見るのが好きだ。私のように、様々な事情で実際にペットを飼うことはできないが、可愛らしいペットの動画に癒されている人は多いのではないだろうか。ネットで人気のペット動画は、数百万回もの再生回数を誇るなど、世界中で大人気と言っても過言ではない。その中には、うさぎやインコの動画もあるが、犬と猫の動画が圧倒的に多い。ある日、weibo（中国版twitter）でペットの動画を見ている時に、犬と猫は中国のことわざによく出てくるが、日本の場合はどうだろう、とふと気になった。

中国のことわざでは、犬（狗）は馴染み深い動物としてよく出ているのだが、ネット世界での可愛らしいイメージと異なり、悪い意味で使われていることが多い。例えば、不良仲間は「狐朋狗友」と言うし、無知の人が賢い人の言行を疑い非難する行為は「蜀犬吠日（蜀犬日に吠ゆ）」と言う。また、「狐假虎威（虎の威を借る狐）」は「狗仗人勢（犬は人の力を頼む、という意味）」とも言う。犬が悪い意味で使われている理由は諸説あり定まらないが、犬がよく吠える、飼い主のどんな命令にも従うという特徴から来たらしい。日本語でもこういった犬の特徴を利用したことわざがあるが、「犬も歩けば棒に当たる」のように、犬があちこち歩きまわることに着目した、中国語にはない新鮮な感覚をもつものもある。

一方、中国のことわざでは猫はあまり出てこない。猫のことわざと言われたら、「猫哭老鼠（猫が鼠の死を悲しんで泣く、鬼の空念仏と同じ意味）」くらいしか思い浮かばない。「猫に九生あり」も中国でよく知られているが、英語の「a cat has nine lives」から来たと考えられており、中国のことわざとは言い難い。それに対して、日本のことわざでは、「猫に小判」、「猫の手も借りたい」、「鳴く猫は鼠を捕らぬ」など、猫を使ったものが数多く存在する。猫は大事なお経を鼠から守る役目で中国から日本にやってきたといわれている。中国の文化にあまり出てこなかった猫が、日本人に親しまれ、ことわざによく使われていることは実に興味深い。

犬と猫はともに日本と中国にとって馴染みの深い動物だが、両国の言葉に占める地位が全く違うとは今まで考えてもみなかった。日本で勉強しているからこそ、こういったおもしろい発見があるのだろう。



中国で有名なペットブログライターが飼っているアラスカンマラミュートとラグドール
(cr. weibo 国民老岳父公 転載許諾済)

新任教員紹介

エネルギー生成研究部門 プラズマエネルギー研究分野

准教授 小林進二



2019年12月1日付けでエネルギー生成研究部門プラズマエネルギー研究分野の准教授に昇任しました小林です。筑波大学で学位取得後、日本原子力研究所（現、量子科学技術研究開発機構）の博士研究員を経た後、本研究所の助手・助教として、本研究所のヘリオトロンJを用いた磁場閉じ込め方式のプラズマ・核融合研究に携わってまいりました。

ヘリオトロンJはヘリカル型と呼ばれる、外部コイルのみで閉じた磁力線の構造を形成し（磁場配位と呼ばれる）、プラズマを閉じ込める方式を採用しています。プラズマ閉じ込めには、プラズマ中に流す電流も閉じ込め磁場に利用するトカマク型と呼ばれる方式もあります。この2つの違いを身近な形で説明すると、トカマク型は単純なドーナツ、ヘリカル型はツイストしたドーナツに相当します。ヘリカル型の閉じ込め磁場配位は、トカマク型で見られるようなディスラプションと呼ばれる熱や電流の消滅が原理的になく、また商用炉で必須となる長時間運転に適しているという利点がありますが、トカマク型と比べ、プラズマの熱が逃げやすいことが欠点です。これはトカマクのドーナツは何等分かしても断面は円形（2次元対称）であるのに対し、ツイストドーナツは切る箇所でも断面形状が異なる（3次元）ことに起因します。幾何学的な形状はプラズマの熱の閉じ込めに密接に関係していて、ネーターの定理でも示されているように「ある系が連続的な対称性を持つ場合、対応する保存則が存在する」ことが重要になります。

ヘリカル型でも磁力線に沿った座標系で見ると、ある方向に対称性が得られるように磁場配位を工夫して熱を逃げていく手法が考案され、各国で新しい装置の計画・建設・実験開始が始まっています。実はヘリオトロンJはプラズマの圧力（正しくはプラズマ圧力と外部コイルの作る磁気圧力の比）を高くすると、限定的ではありますが対称性が向上するという特徴を持っています。対称性を向上させるとその方向に流れが発生しやすくなり、この流れが熱の損失を抑える断熱層の役割を果たすことが期待されます。世界に先駆けて、対称性が熱の閉じ込めに与える効果を実験的に検証することが、ヘリオトロンJの大きな目標の一つになっています。

附属エネルギー複合機構研究センター 広帯域エネルギー理工学開拓研究分野

助教 篠北啓介



本年度2月1日付けで広帯域エネルギー理工学開拓研究分野の助教に着任した篠北です。京都大学理学研究科にて学位取得後、グローニンゲン大学（オランダ）、マックスボルン研究所（ドイツ）でのポストドク研究員を経た後、2017年より京都大学エネルギー理工学研究所ナノ光科学研究分野にて特定助教として研究を進めてまいりました。今後は正式な所員の一人として、研究に従事してまいります。

私はこれまで、可視領域からテラヘルツ領域までの広い周波数帯において光と物質の相互作用が織りなす新規な光学現象や非線形な光学応答に興味を持って研究を行ってきました。本研究所に着任した2017年からは、原子数層の厚みしかない極めて薄い原子層二次元半導体の研究を進めてきました。二次元半導体という極限薄膜中に光で励起された電子とその抜け穴である正孔は、互いに強くクーロン束縛した励起子という状態を形成するため、室温においても量子力学的効果の色濃く反映した特徴的な光学応答を示します。さらに、二次元半導体中の電子や励起子は波数空間上で「バレー」という新しい量子自由度を持っており、こうしたバレー自由度は光の左右の円偏光によって制御することが可能であることから、光と二次元半導体中の電子の相互作用によってこれまでにない新しい光機能性が発現します。例えば、こうしたバレーの量子自由度を自在に操作できれば、バレー情報をデジタル情報処理の0と1に対応させて利用することができ、従来の電荷を使ったエレクトロニクスに代わる高速かつ省エネルギーな光電子デバイスが期待できます。私はこれまでに、先端的分光手法やデバイス作製技術を用いて、励起子のバレー状態に関する光科学の研究に取り組んでおり、バレー状態が失われてしまうバレーの緩和現象の解明や制御に成功してきました。これらの研究で得られたバレー物理の知見を今後さらに発展させることで、将来の高速・省エネルギーな光電子デバイスの実現につながると期待されます。今後の豊富としては、バレーという新しい量子自由度を活用した研究を発展させるとともに、ナノ物質の光科学に関する新しい研究分野を開拓していきたいと考えております。

未だ至らない点もありますが、今後はエネルギー理工学研究所の一員として尽力していく次第です。今後ともご

指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いたします。

エネルギー利用過程研究部門 生物機能化学研究分野

特定助教 DINH, Huyen Thi Thu



I was born in Nam Dinh, a small city in the northern Vietnam. I completed my B.Sc degree in 2011 with the major in Biology from University of Science in Hanoi, Vietnam National University (VNU). In 2012, I received the Japanese government (Monbukagakusho: MEXT) scholarship and started my graduate studies in the Graduate School of Energy Science, Kyoto University under the supervision of Professor Takashi Morii. I really enjoyed doing research in here, so I decided to continue to the doctoral program in the same laboratory. I obtained my PhD degree in Energy Science in 2019 with the topic focused on the “Study of enzyme reactions in the ordered assembly states”. The enzyme molecules were spatially assembled on a DNA nanostructure to form a packed state, which is often observed in living cells. Enzymatic reactions were studied in comparison to that in a dispersed state on the same DNA scaffold. At present, I am continuing my work in Morii laboratory as a Project-Specific Assistant Professor, where I am tasked to learn about real-time monitoring of the cellular environments using biosensors. We are using DNA nanostructures as scaffolds for sensing systems. This will allow us to simultaneously track multiple biochemical activities in a living cell within the same time frame.

Even after spending a long time in here, Japan still surprises me everyday. Apart from my research activities, I enjoy travelling and taking photos of beautiful sceneries, while learning about its history, its culture, and its customs. I am very happy for my self-development in Japan and for the friendships and professional relations I garnered during my stay. Staying here has also taught me a lot about the working culture and the importance of communication in science. I want to take this opportunity to express my most sincere appreciation to Professor Takashi Morii, my dear supervisor and now my boss, for his guidance, support and giving me the chance to work and participate in scientific activities in Kyoto University. I want to continue my journey in here, exploring new aspects in research while deepening my knowledge about fundamental science. I am hoping that this work would allow me to further understand the inner working of the cellular system. More so, I am eager to use these findings to pursue futuristic strategies that could enable us to tackle problems in human health, and potentially in energy science, for the betterment of our society.

エネルギー生成研究部門 量子放射エネルギー研究分野

特別招へい講師 TAN, Chia Kwang
(UM Power Energy Dedicated Advanced Center (UMPEDAC),
University of Malaya · Senior Lecturer)



I was born in Penang, Malaysia in 1982, where I spent most of my childhood. After completing my secondary education in 2001, I secured a scholarship from the Malaysian electrical power utility company, Tenaga Nasional Berhad (TNB) to pursue my undergraduate degree in electrical and electronics engineering in their university – Universiti Tenaga Nasional. Upon completing my undergraduate degree in 2006, I started my working career with TNB as a researcher in their research arm. My main duty was to investigate the root cause of various power equipment failures in the electrical grid infrastructure. Concurrently while working, I also started to pursue my master’s in electrical engineering degree from Universiti Tenaga Nasional, majoring in voltage sags due to power system faults phenomenon. I completed my master’s degree in 2008 and subsequently pursued my PhD in electrical engineering between 2009 to 2013, where I major in identifying the location of power system faults in the grid. Upon completing my PhD degree, I join University of Malaya as a post-doctoral research fellow in UM Power Energy Dedicated Advanced Center (UMPEDAC), a national Higher Institution Centre of Excellence (HiCoE) in Malaysia for energy related studies. In 2014, I was promoted to senior lecturer in UMPEDAC. My research interests encompass the various electrical power system studies such as power system faults, power system protection, stability and impact and solutions for renewable energy integration into the power system grid. Up to date, I have published more than 20 ISI indexed journal papers and achieved

h-index of 8. Throughout my career in UMPEDAC, I was also involved in the various industry consultancy jobs, notably, insulation coordination due to lightning and transformer energization studies for Petronas Co-generation Plant (PCP), and power system study (PSS) for the integration of 100MW solar farm into the national grid under Large Scale Solar (LSS) scheme.

附属エネルギー複合機構研究センター便り

● 2019年度センター共同研究成果報告会のご案内 ●

4月3日（金） 14時より

エネルギー理工学研究所北4号棟4階 大会議室

● 2020年度センター共同研究応募要領について ●

来年度も共同研究を推進する予定です。応募要領につきましては、別途ご案内します。

● センター談話会 ●

今年度の談話会は、外部から講師の先生をお招きして5回、所内研究者による研究討論会を6回実施しました。昨年度より22回に亘って開催された研究討論会は、センター共同研究の目的である所内連携研究の可能性を見つけ出す機会として積極的に行われました。

お問い合わせ先

京都大学エネルギー理工学研究所附属エネルギー複合機構研究センター

岡田 浩之

TEL : 0774-38-3486 h-okada@iae.kyoto-u.ac.jp



受賞

電気化学会 電気化学会学術賞

野平俊之

(エネルギー利用過程研究部門 複合化学過程研究分野 教授)

「融塩およびイオン液体中における新規な電気化学反応とその応用に関する研究」

日本物理学会若手奨励賞

西原大志

(エネルギー機能変換研究部門 ナノ光科学研究分野 特定助教)

「ナノカーボン物質の励起子光物性研究」

日本生物物理学会若手招待講演賞

山置佑大、永田 崇、清石彩華、三宅雅之、片平正人、ほか

(エネルギー利用過程研究部門 エネルギー構造生命科学分野)

「In-cell NMR 法を用いたヒト生細胞内核酸の構造およびダイナミクスの評価」

日本原子力学会第 11 回材料部会若手優秀賞

高 暹

(エネルギー機能変換研究部門 エネルギー基盤材料研究分野 特任助教)

「フェライト系鉄鋼材料における照射硬化・微細組織相関に関する研究」

「材料照射研究会－Irradiation 3.0 に向けて－」組織委員会 優秀ポスター賞

Bo HUANG

(エネルギー機能変換研究部門 複合機能変換過程研究分野 研究員)

「Swelling and Raman Spectroscopy of C/BN Particle Dispersed SiC Materials after Ion Irradiation」

日本原子力学会第 16 回核融合工学部会奨励賞

宋 鵬

(エネルギー機能変換研究部門 エネルギー基盤材料研究分野 研究員)

「酸化物分散強化フェライト鋼に及ぼす He イオン照射の影響」

日本原子力学会 2019 年「水化学部会賞 (奨励賞)」

黄 彦瑞

(エネルギー機能変換研究部門 エネルギー基盤材料研究分野 研究員)

「オーステナイト系ステンレス鋼の応力腐食割れに関する研究」

電気化学会関西支部 関西電気化学奨励賞

近藤愛理

(エネルギー利用過程研究部門 複合化学過程研究分野 修士課程 2 回生)

「等モル AF-ACI (A=Na or K) 溶融塩中における Si 電析」

フラーレン・ナノチューブ・グラフェン学会

第 57 回フラーレン・ナノチューブ・グラフェン総合シンポジウム 若手奨励賞

田中絢也

(エネルギー機能変換研究部門 ナノ光科学研究分野 修士課程 2 回生)

「Machine-learning approach for predicting low temperature Valley Polarization landscapes in 2D Semiconductors」

フラーレン・ナノチューブ・グラフェン学会 Journal of Materials Chemistry A 賞

田中絢也

(エネルギー機能変換研究部門 ナノ光科学研究分野 修士課程 2 回生)

「Machine-learning approach for predicting low temperature Valley Polarization landscapes in 2D Semiconductors」

電気化学会溶融塩委員会 令和元年度溶融塩奨励賞

鵜木 亮

(エネルギー利用過程研究部門 複合化学過程研究分野 修士課程 1 回生)

「共晶 LiF-LiCl 溶融塩中でのチタン電析」

研究所訪問

中国科学院力学研究所 (中華人民共和国)

2019 年 11 月 6 日 (水) 午前に 9 名来所。

岸本泰明所長の大学や研究所の概要説明の後、Heliotron J、DuET を見学、その後、小西哲之教授が持続可能エネルギーについて講義を行いました。

静岡聖光学院中学校・高等学校

2019年11月11(月)～12(日)に8名来所。

エネルギー構造生命科学分野の見学に来られました。11日は事前に出された課題について各生徒が調べてきた内容を学問研究発表会としてプレゼンしてもらいました。12日はNMR装置と研究室の実験装置を見学しました。

JST さくらサイエンスプラン中国行政官プログラム

2019年11月15日(金)午前に41名来所。

岸本泰明所長の大学や研究所の概要説明の後、大垣英明教授がこれまでに実施したさくらサイエンスプランについて説明しました。その後、研究所教員、研究員、留学生との意見交換会を行いました。

三重県立上野高等学校

2019年11月19日(火)午後に41名来所。

岸本泰明所長から研究所概要説明を受けたのち、研究所基幹装置である Heliotron J、DuET/MUSTER、自由電子レーザー KU-FEL、NMR 装置群を見学、その後、大学院生との懇談会を行いました。

京都府私立中高理科研究会

2019年11月24日(日)午後に14名来所。

岸本泰明所長の「構造を司る媒質・プラズマが繰り広げる世界—核融合・光量子・宇宙の理解を目指して—」と題する講義ののち、自由電子レーザー KU-FEL とナノ光科学研究分野の装置を見学、その後、懇談会を行いました。

浙江大学(中華人民共和国)、亜州大学(大韓民国)

2019年12月5日(木)午後に48名来所。

岸本泰明所長から研究所の概要説明を受けたのち、研究所基幹装置である Heliotron J と DuET を見学しました。

各種研究費の受け入れ

共同研究

研究代表者	研究題目	申請者	研究期間
野平俊之	熔融塩を用いた高融点、高機能材料の電解技術に関する共同研究	住友電気工業(株)	2019.4.1～ 2020.3.31
坂口浩司	ナノ構造炭素材料の構造解析	(株)KR I	2019.6.1～ 2021.3.31
小西哲之	核融合炉内機器及び付属システムの開発研究	京都フュージョニアリング(株)	2019.12.16～ 2020.3.31

受託研究

研究代表者	研究題目	委託者	研究期間
野平俊之	JICA 研修員受入	(独)国際協力機構	2019.10.1～ 2022.9.26
木村晃彦	事故耐性燃料被覆管用ステンレス鋼の溶接技術開発	日本核燃料(株)	2019.11.1～ 2020.2.10

奨学寄附金

研究代表者	研究題目	寄附者
神庭圭佑	HIVのVifによる異なる2種類の「ヒト防御システム無力化手段」の同時阻害	(公)京都大学教育研究振興財団
山本貴之	イオン液体電解質を用いた二次電池用複合負極材料の開発	(公)八洲環境技術振興財団

人事異動

発令年月日 または 受入期間	氏名	異動内容	所属・身分	旧(現)所属・職名等
2019.12.1	小林進二	昇任	エネルギー生成研究部門 プラズマエネルギー研究分野 准教授	エネルギー生成研究部門 プラズマエネルギー研究分野 助教

発令年月日 または 受入期間	氏名	異動 内容	所属・身分	旧（現）所属・職名等
2019.12.16	DINH, Huyen Thi Thu	採用	エネルギー利用過程研究部門 生物機能化学研究分野 特定助教	エネルギー利用過程研究部門 生物機能化学研究分野 研究員
2020. 2. 1	TAN, Chia Kwang	契約	エネルギー生成研究部門 量子放射エネルギー研究分野 特別招へい講師	University of Malaya（マレーシア） Senior Lecturer
2020. 2. 1	篠北啓介	採用	附属エネルギー複合機構研究センター 広帯域エネルギー理工学開拓研究分野 助教	エネルギー機能変換研究部門 ナノ光科学研究分野 特定助教
2020. 1.31	BARK ARBY, Mohmoud Abdelaziem	特定助教 任期満了	エネルギー生成研究部門 原子エネルギー研究分野 研究員	エネルギー生成研究部門 原子エネルギー研究分野 特定助教
2020. 2. 1	片平正人	再任	エネルギー利用過程研究部門 エネルギー構造生命科学研究分野 教授	エネルギー利用過程研究部門 エネルギー構造生命科学研究分野 教授

部局間学術交流協定締結

締結年月日	協力先	国名	協力分野
2019.10.21	西南物理研究所・核融合科学センター	中華人民共和国	プラズマ物理・核融合科学
2019.10.30	華中科技大学・プラズマ物理国際共同研究所	中華人民共和国	プラズマ物理・核融合科学

外国からの来訪者

来訪年月日	氏名	所属機関名・職名・所属機関国籍
2019.10.23	Verawat Champreda	National Science and Technology Development Agency・主任研究員・タイ
2019.10.23	Navadol Laosiripojana	King Mongkut's University of Technology Thonburi・教授・タイ
2019.10.27 ～11. 9	Panadero Nerea	CIEMAT・ポスドク・スペイン
2019.11. 6	Huang Heji	中国科学院力学研究所・所長補佐・中華人民共和国
2019.11. 6	Li Wenhao	中国科学院力学研究所・副センター長・中華人民共和国
2019.11. 6	Wu Chenwu	中国科学院力学研究所・副研究員・中華人民共和国
2019.11. 6	Zhang Chenan	中国科学院力学研究所・上級エンジニア・中華人民共和国
2019.11. 6	Li Teng	中国科学院力学研究所・上級エンジニア・中華人民共和国
2019.11. 6	Liu Hongwei	中国科学院力学研究所・副研究員・中華人民共和国
2019.11. 6	Wang Jing	中国科学院力学研究所・上級エンジニア・中華人民共和国
2019.11. 6	Peng Qing	中国科学院力学研究所・研究員補佐・中華人民共和国
2019.11. 6 ～11	Ioanna Mela	ケンブリッジ大学・研究員・UK
2019.11.10 ～18	Takuya Yamamoto	UCSB・研究員・USA

来訪年月日	氏名	所属機関名・職名・所属機関国籍
2019.11.11	Ya-Ming Hou	Thomas Jefferson University・Professor・USA
2019.11.11	Howard Gamper	Thomas Jefferson University・Assistant Professor・USA
2019.11.15	姜小平	中国科学技術部交際合作司アジア・アフリカ処・二級調研員（団長）・中華人民共和国
2019.11.15	李沛	中国科学技術部国際合作司アメリカ・カナダ処・四級調研員・中華人民共和国
2019.11.15	馬翼春	中国科学技術部人事司幹部処・四級主任科員・中華人民共和国
2019.11.15	張冬青	中国科学技術部科技監督・誠信建設司科技監督処・四級主任科員・中華人民共和国
2019.11.15	楊春暉	中国科学技術部離退職幹部局指導者連絡処・二級主任科員・中華人民共和国
2019.11.15	郭曉鷗	中国科学技術部機関サービスセンター財務処・二級主任科員・中華人民共和国
2019.11.15	趙静	国家民委国際司交流合作処・処長・中華人民共和国
2019.11.15	梅娜 阿不都熱合曼	西北民族大学国際処・幹部・中華人民共和国
2019.11.15	李聞甲	民政部事務庁国際合作司・主任科員・中華人民共和国
2019.11.15	房光宇	民政部機関党委人事司・主任科員・中華人民共和国
2019.11.15	广忠勇	甘肅省商業科技研究所・主任・中華人民共和国
2019.11.15	唐妍	交通運輸部科技司・主任科員・中華人民共和国
2019.11.15	楊俊	文化旅行部アジア処国際交流・合作局・副調研員・中華人民共和国
2019.11.15	張瑞	文化旅行部アジア処国際交流・合作局・科員・中華人民共和国
2019.11.15	陳英豪	生態環境部国際合作司・幹部・中華人民共和国
2019.11.15	葛智	生態環境部行政体制・人事司・幹部・中華人民共和国
2019.11.15	董詩偉	国際機関事務管理局人事司二処・主任科員・中華人民共和国
2019.11.15	李淼	国家機関事務管理局中央国家機関政府採購管理センター採購一処・主任科員・中華人民共和国
2019.11.15	鄧涛	会計検査院事務庁財務二処・副処長・中華人民共和国
2019.11.15	姜千輝	会計検査院離退職幹部事務室サービス二処・一級主任科員・中華人民共和国
2019.11.15	曾偉	国家市場監督管理総局科技財務司・副調研員・中華人民共和国
2019.11.15	万菲	国会市場監督管理総局機関党委・処長・中華人民共和国
2019.11.15	邵巾芳	中国国家鉄路集团有限公司国際合作部・サブマネージャー・中華人民共和国
2019.11.15	李永娟	中国国家鉄路集团有限公司事務庁・副主任・中華人民共和国
2019.11.15	毛鋒	国家林業・草原局国際司・副処長・中華人民共和国
2019.11.15	石青	国家林業・草原局合作センター・主任科員・中華人民共和国
2019.11.15	徐進	国家自然科学基金委員会国際合作局ヨーロッパ処・幹部・中華人民共和国
2019.11.15	馮奇	国家自然科学基金委員会人事局・副処長・中華人民共和国
2019.11.15	李国涛	北京大学腔医院外事事務室・主任、アシスタント研究員・中華人民共和国
2019.11.15	蔡宇	北京大学腔医院歯周病科・主治医師・中華人民共和国
2019.11.15	樊霖	水利部發展研究センター發展戦略研究所・エンジニア・中華人民共和国
2019.11.15	白麗群	水利部發展研究センター事務室・アシスタントエンジニア・中華人民共和国
2019.11.15	陳娟	中国水利水電科学研究院・高級エンジニア・中華人民共和国
2019.11.15	胡俊平	中国科普研究所科学媒介研究室・副研究員・中華人民共和国
2019.11.15	付文婷	中国科普研究所事務室・主任科員・中華人民共和国
2019.11.15	齊培瀟	中国科普研究所科普政策研究室・アシスタント研究員・中華人民共和国
2019.11.15	吳春廷	中国科普研究所科学素質研究室・幹部・中華人民共和国

来訪年月日	氏 名	所属機関名・職名・所属機関国籍
2019.11.15	賀松	中国スマート交通協会業務発展部・部長・中華人民共和国
2019.11.15	張叢依	中国スマート交通協会会員・主管・中華人民共和国
2019.11.15	崔梓晗	対外経済貿易大学外事処・副主任・中華人民共和国
2019.11.15	張炳坤	中国農業大学・副研究員・中華人民共和国
2019.11.20 ～12.10	王可	浙江大学・学部学生・中華人民共和国
2019.11.25	Benedikt Albert	MTU Aero Engines・研究員・ドイツ
2019.11.25	Markus Wagner	MTU Aero Engines・研究員・ドイツ
2019.11.25	Markus Geisler	MTU Aero Engines・研究員・ドイツ
2019.11.25	Simon Schmalfluss	MTU Aero Engines・研究員・ドイツ
2019.11.29	Martin Geir Hearberg	Department of Materials Science and Engineering, Norwegian University of Science and Technology・Professor・ノルウェー
2019.12. 5	Gao Xiang	浙江大学・教授・中華人民共和国
2019.12. 5	Huang Qunxing	浙江大学・教授・中華人民共和国
2019.12. 5	Wu Xuecheng	浙江大学・教授・中華人民共和国
2019.12. 5	Lin Guoxin	浙江大学・学生・中華人民共和国
2019.12. 5	Chen Xiaofeng	浙江大学・学生・中華人民共和国
2019.12. 5	Sun Yifu	浙江大学・学生・中華人民共和国
2019.12. 5	Liu Ke	浙江大学・学生・中華人民共和国
2019.12. 5	Chen Tao	浙江大学・学生・中華人民共和国
2019.12. 5	Zhao Yanyun	浙江大学・学生・中華人民共和国
2019.12. 5	Huang Wei	浙江大学・学生・中華人民共和国
2019.12. 5	Chen Jiaying	浙江大学・学生・中華人民共和国
2019.12. 5	Wang Shulin	浙江大学・学生・中華人民共和国
2019.12. 5	Song Qi	浙江大学・学生・中華人民共和国
2019.12. 5	Fang Yibo	浙江大学・学生・中華人民共和国
2019.12. 5	Song Jiawen	浙江大学・学生・中華人民共和国
2019.12. 5	Xu Chenxuan	浙江大学・学生・中華人民共和国
2019.12. 5	Wu Yuhao	浙江大学・学生・中華人民共和国
2019.12. 5	Li Pei	浙江大学・学生・中華人民共和国
2019.12. 5	Xiang Duo	浙江大学・学生・中華人民共和国
2019.12. 5	Bao Kangli	浙江大学・学生・中華人民共和国
2019.12. 5	Bao Zhier	浙江大学・学生・中華人民共和国
2019.12. 5	Yu Jiahan	浙江大学・学生・中華人民共和国
2019.12. 5	Lin Zhiming	浙江大学・学生・中華人民共和国
2019.12. 5	Wang Linglong	浙江大学・学生・中華人民共和国
2019.12. 5	Chen Yucheng	浙江大学・学生・中華人民共和国
2019.12. 5	Pan Yuhan	浙江大学・学生・中華人民共和国
2019.12. 5	Yang Yuxuan	浙江大学・学生・中華人民共和国
2019.12. 5	Hu Nan	浙江大学・学生・中華人民共和国
2019.12. 5	Yi Ningtong	浙江大学・学生・中華人民共和国

来訪年月日	氏 名	所属機関名・職名・所属機関国籍
2019.12. 5	Li Zheng	浙江大学・学生・中華人民共和国
2019.12. 5	Xue Zhiliang	浙江大学・学生・中華人民共和国
2019.12. 5	Zhang Menglei	浙江大学・学生・中華人民共和国
2019.12. 5	Kim Ki Hong	亜州大学・教授・大韓民国
2019.12. 5	Park Ji Yong	亜州大学・准教授・大韓民国
2019.12. 5	Lee Sang Woon	亜州大学・准教授・大韓民国
2019.12. 5	Kim Hwan Myung	亜州大学・教授・大韓民国
2019.12. 5	Lee Jaehyun	亜州大学・准教授・大韓民国
2019.12. 5	Lim Jaehoon	亜州大学・准教授・大韓民国
2019.12. 5	Noorfatima Nadaya	亜州大学・学生・大韓民国
2019.12. 5	Kim Hye Ju	亜州大学・学生・大韓民国
2019.12. 5	Kong Junhyuk	亜州大学・学生・大韓民国
2019.12. 5	Choi Yeongho	亜州大学・学生・大韓民国
2019.12. 5	Sung Kihyuk	亜州大学・学生・大韓民国
2019.12. 5	Lee Seulchan	亜州大学・学生・大韓民国
2019.12. 5	Kang Hyunwoo	亜州大学・学生・大韓民国
2019.12. 5	Hyun Sanghwa	亜州大学・学生・大韓民国
2019.12. 5	Ha Seongiu	亜州大学・学生・大韓民国
2019.12. 9	Hae June Lee	釜山大学・教授・大韓民国
2019.12.11	David Portehault	Laboratoire Chimie de la Matière Condensée de Paris Sorbonne Université/ CNRS・Researcher・フランス
2019.12.17 ～18	Gerald Kulcinski	University of Wisconsin・Professor・USA
2019.12.17 ～18	Joe Khachan	The University of Sydney・Professor・オーストラリア
2019.12.17 ～18	Richard Bowden-Reid	The University of Sydney・Researcher・オーストラリア
2019.12.17 ～18	Nicholas Ranson	The University of Sydney・Student・オーストラリア
2020. 1.12 ～2. 7	Yoon Hnin Bo Ju	ヤンゴン大学・修士課程学生・ミャンマー

海外渡航

氏 名	渡 航 目 的	目的国	渡航期間	備 考
檜 木 達 也	ICFRM-19 出席、SiC 複合材料の開発状況に関する情報収集、プレナリー講演	アメリカ	2019.10.27 ～2019.11. 3	受託研究費
長 崎 百 伸	国際交流協会の締結	中華人民 共和国	2019.10.29 ～2019.11. 1	受託研究費
大 垣 英 明	JASTIP - NET における非電化地域での再生エネルギーの融合計画について調査、研究について進捗、打ち合わせ	タイ	2019.11. 7 ～2019.11. 9	受託研究費
大 垣 英 明	アセアン工学系高等教育ネットワークプロジェクト運営指導調査 “ICoRER2019 is collaborating with The 12 th RCeneE (Regional Conference on Energy Engineering)” 出席	インドネシア	2019.11.10 ～2019.11.14	JICA

氏名	渡航目的	目的国	渡航期間	備考
松田一成	Eu-Japan Workshop2019 出席、原子層物質におけるバレースピノフォトニクス創生と応用に関する成果発表	イタリア	2019.11.17 ～2019.11.22	科研費
大垣英明	バイオマスエネルギーの国際共同研究案、日本として戦略構築等話し合い。農村への電化について情報収集、研究推進打ち合わせ JASTIP の1月会議に向けて打ち合わせ ラオス国立大学、科学技術省との協力計画について情報交換	ミャンマー タイ ラオス	2019.11.28 ～2019.12. 4	受託研究費
中田栄司	生物機能化学に関する調査研究、情報収集	中華人民共和国	2019.11.30 ～2019.12. 5	運営費 Jinan University
仲野瞬	生物機能化学に関する調査研究、情報収集	中華人民共和国	2019.11.30 ～2019.12. 5	運営費 Jinan University
長崎百伸	EPS 2020 Conference Program Committee, EPS-PPD Board 出席、プラズマ物理に関する情報収集	イギリス	2019.12. 4 ～2019.12. 8	未来エネルギー 研究協会
松田一成	The 11 th International Conference on Advanced Materials and Devices 2019 参加、「原子層物質におけるバレースピノフォトニクス創生と応用」に関する成果発表	大韓民国	2019.12.12 ～2019.12.14	科研費
大垣英明	農村への電化について情報収集、研究推進打ち合わせ。ISF2019 参加、マラヤ大学再生エネルギー修士課程についてのレビュー、コメント	ミャンマー マレーシア	2019.12.12 ～2019.12.19	受託研究費 マラヤ大学
CRAVIOTO CABALLERO, Jordi	住民調査準備、打ち合わせ ソーラーパネル導入に関する住民調査、データ収集	マレーシア	2019.12.17 ～2019.12.20	受託研究費
大垣英明	ISFT2020 参加、アセアンでの農村での影響についての講演、情報収集	インド	2020. 1. 6 ～2020. 1. 9	産学間接経費
大垣英明	ASEAN-Japan STI Symposium 出席、Topical Session2 においてパネルディスカッション司会、運営。JASTIP WP2 Workshop on Photocatalysis for Energy and Environment 出席、ディスカッション。The 5 th WP2 JASTIP-WP2 Annual Workshop 出席、リーダーとして司会、活動報告	ベトナム タイ	2020. 1.16 ～2020. 1.21	受託研究費
檜木達也	FRONTIER 計画運営委員会出席	アメリカ	2020. 1.21 ～2020. 1.25	核融合科学 研究所
DINH, Huyen Thi Thu	KAPLAT Core to Core プログラムにおいて生物機能化学に関する共同研究	ベトナム	2020. 1.21 ～2020. 1.28	受託研究費
大垣英明	カンボジアでの農村地域の生活向上のための革新的な GC グリッド研究についてディスカッション、データ収集	カンボジア	2020. 2. 7 ～2020. 2.10	受託研究費
CRAVIOTO CABALLERO, Jordi	Comparative studies of Culturally-based characterization of energy services に関するエネルギーサービスの調査、データ収集、ディスカッション	メキシコ	2020. 2. 9 ～2020. 2.23	機能強化経費 科研費
永田崇	Biophysical Society 2020 BPS Annual Meeting 参加、癌・幹細胞増殖性維持に関わる翻訳抑制複合体の形成原理と創薬に向けた分子基盤の構築に関する発表、情報収集、討論	アメリカ	2020. 2.14 ～2020. 2.22	科研費

各種講演会の開催状況

令和元年度 第4回 附属エネルギー複合機構研究センター談話会

日 時：2019年12月9日（月）16：00～

場 所：エネルギー理工学研究所 本館セミナー室1（W-503E）

題 目：Application of Low-Temperature Plasmas for Skin Treatment and Stem Cell Proliferation

講演者：Hae June Lee（釜山大学（大韓民国）・教授）

エネルギー理工学研究所講演会

日 時：2020年2月10日（月）10：30～12：00

場 所：エネルギー理工学研究所 北4号棟大会議室

題 目：LHDにおける粒子バランス研

講演者：本島 巖（核融合科学研究所・准教授）

研究所出版物一覧

- ▲ 京都大学エネルギー理工学研究所年報（年度末発行）
- ▲ 京都大学エネルギー理工学研究所ニュースレター（年3回発行）
- ▲ 京都大学エネルギー理工学研究所リサーチレポート（不定期発行）

エネルギー生成研究部門

量子放射エネルギー	原子エネルギー	プラズマエネルギー	複合系プラズマ	先進エネルギー評価
教授 大垣英明 准教授 紀井俊輝 助教 全 炳俊 特定助教 CRAVIOTO CABALLERO, Jordi 特別招へい講師 TAN, Chia Kwang 事務補佐員 長家友美子	教授 小西哲之 講師 八木重郎 助教 向井啓祐 事務補佐員 和田裕子	教授 長崎百伸 准教授 小林進二 非常勤講師 本島 巖 事務補佐員 村田晶子	教授 長崎百伸(兼) 准教授 南 貴司 准教授 門信一郎 助教 大島慎介	

エネルギー機能変換研究部門

複合機能変換過程	レーザー科学	エネルギー基盤材料	ナノ光科学	クリーンエネルギー変換 (客員研究分野)
教授 松田一成(兼) 准教授 檜木達也 助教 神保光一 事務補佐員 藤原志織	教授 松田一成(兼) 准教授 中嶋 隆 非常勤講師 高橋正好	教授 松田一成(兼) 准教授 森下和功 助教 藪内聖皓 事務補佐員 石井令乃奈	教授 松田一成 准教授 宮内雄平 特定助教 西原大志 事務補佐員 藤原志織	客員教授 雨澤浩史 客員准教授 田中照也

エネルギー利用過程研究部門

複合化学過程	分子ナノ工学	生物機能化学	エネルギー構造生命科学	エネルギー利用過程 研究部門
教授 野平俊之 准教授 小瀧 努 助教 山本貴之 事務補佐員 高取裕美	教授 坂口浩司 助教 小島崇寛 助教 信末俊平 非常勤講師 江良正直 事務補佐員 伊藤裕子	教授 森井 孝 准教授 中田栄司 助教 仲野 瞬 特定助教 DINH, Huyen Thi Thu 技術補佐員 中田ちえみ 派遣職員 梶川幸恵	教授 片平正人 准教授 永田 崇 技術補佐員 村上直美	講師 ARIVAZHAGAN, Rajendran

附属エネルギー複合機構研究センター

センター長 小西哲之 技術専門職員 芝野匡志 技術専門職員 高塚真理	技術専門職員 東使 潔 技術専門職員 才村正幸 技術専門職員 坂本欣三	技術職員 大村高正 技術職員(再) 矢口啓二 技術職員(再) 橋富興宣	技術職員(再) 千住 徹 技術補佐員 中貝久美子 事務補佐員 隈部公子	事務補佐員 渡邊しおり 労務補佐員 杉村真理
自己組織化科学研究分野	高温プラズマ機器学 研究分野	広帯域エネルギー 理工学開拓研究分野	環境微生物学研究分野 (寄附部門)	
教授 木下正弘 研究員 山田達矢	教授 長崎百伸(兼) 准教授 岡田浩之	教授 松田一成(兼) 助教 篠北啓介	特定教授 原 富次郎 特定准教授 高塚由美子 技術補佐員 関 未央	

所長秘書室	事務補佐員 高橋友子
資料室	特定職員 滝本佳子
共同利用・共同研究推進室	研究支援推進員 圓崎さゆり 岩村早苗 事務補佐員 社納 葵

宇治地区事務所	エネルギー理工学研究所担当事務室	山本和人(事務長) 延原由紀(主任) 澤田尚美(事務補佐員) 松江絵里子(派遣職員)
---------	------------------	---

所長
岸本泰明

副所長
森井 孝

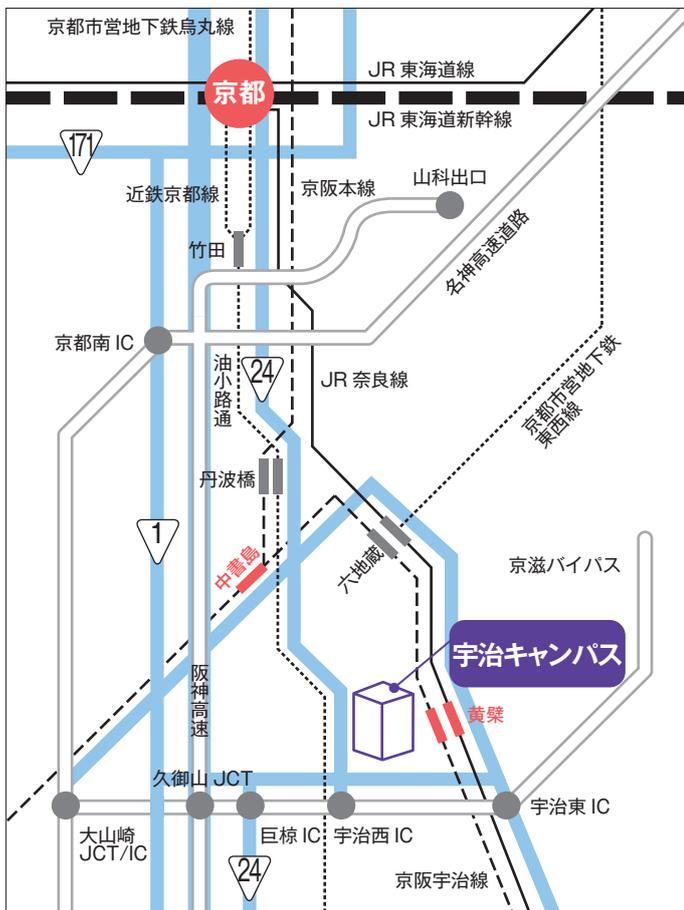
教授会

補佐会

各種委員会

協議員会

協議員
岸本泰明
小西哲之
森井 孝
木下正弘
大垣英明
長崎百伸
片平正人
坂口浩司
松田一成
野平俊之
石原慶一



京都大学エネルギー理工学研究所 News Letter

2020年3月31日発行

編集兼発行人 京都大学エネルギー理工学研究所 所長 岸本泰明

〒611-0011 京都府宇治市五ヶ庄

TEL 0774-38-3400 FAX 0774-38-3411

<http://www.iae.kyoto-u.ac.jp/>